[介護崩壊を防ぐために:00096] 【宮城県が「応援職員の直接派遣」公募を開始】

介護崩壊を防ぐために（現場からの提案）ご賛同者・ご協力者の皆さま

宮城の認知症をともに考える会世話人の皆さま

Denmy-mlmg会員の皆さま

CC：認知症サポート医dmspdr メール会員の皆さま

●宮城県が「応援職員の直接派遣」の仕組みを整え、公募を始めました。

＝＝県政号外R2年10月14日＝＝

県では，職員の直接派遣に当たっては，別紙のとおり，マスクや防護服等の衛生資材の支給，旅費や特殊勤務手当の支援を行うことに加え，新型コロナウイルス感染症に係る傷害保険の加入や派遣前後における宿泊施設の確保など，少しでも感染リスクの低減や感染不安を軽減し，できる限りのサポートをいたします。感染症対策に皆様と一体となって取り組むため，多くの法人・施設に御協力いただきたく存じますので，どうぞよろしくお願いいたします。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

現場の声が、ようやく届きはじめました。

届くまでを少しふり返ってみます。

3月28日、千葉の福祉施設で集団感染が発生。

4月6日に飛び込んできた情報。

＝＝＝＝

入所者が施設にそのまま隔離となり、5-6人の陰性の職員で全員を見るという地獄絵図になっているそうです。

医療の応援はあっても、福祉のサポート体制がなく、知的、精神等の方の入所施設では同様のケースが今後多発するかと危惧します。

＝＝＝＝

6月2日NHKクローズアップ現代「“介護クラスター” 高齢者の命をどう守る?」

第1波のとき、全国でおきた介護崩壊の現実。

自分たちの職場だけが生き残ればよいという問題ではない。

（denmyの丹野さん、家族会の若生さん、県GH協議会の内海さん、GH協県支部の佐々木薫さん、CM協会の小湊さんと話し合い）

6月7日、「宮城の認知症をともに考える会」の有志で提案書を作成

【介護崩壊を防ぐために（現場からの提案）】

＝＝＝＝

介護施設で感染者が1人発生すれば、数日のうちに深刻な人員不足を生じ、集団感染（クラスター）が広がると予想されます。このリスクに備え、介護崩壊を防ぐために、法人の枠を超えた介護職の応援体制の構築と、軽症者向け宿泊施設内に要介護者専用の介護付きエリアを設置することを提案します。

＝＝＝＝

（賛同者・協力者46名。クラスター対策班の小坂健先生とつながる）

6月15日 Web会議を定例化（毎週月曜。福祉ジャーナリストの町永さんとつながる）

6月22日 河北新報掲載（谷さんが仲介）

6月30日 厚労省通知

＝＝＝＝

都道府県においては、令和２年度第２次補正予算に計上した、緊急時の応援に係るコーディネート機能の確保等に必要な費用も活用し、平時より介護保険施設等の関係団体と連携・調整し、緊急時に備えた応援体制を構築するとともに、感染者等が発生した場合の人材確保策を講じること。

＝＝＝＝

（神奈川、愛媛、堺市などが、先進的な取り組み）

8月3日、17日、オンラインセミナー開催（今井さんの名司会）

県と市と種別協にロビー活動

（佐々木薫さんを軸に丹野さん、若生さん、小湊さん／谷さんを通じて県議の石田さんも）

（介護福祉士会と看護協会が賛意を表明）

要望書を追加↓

8月7日【介護家族が感染したら本人はどうなるのか】

（谷さんを通じて堺市の担当者とつながる）

8月10日【論点整理：3つの事実と、2つの予測・提案】

8月21日【総合生活保険】

（代理店であるカメイを通じて東京海上日動に設計依頼、宮城より先に愛媛が採用→愛媛の担当者とつながる）

8月30日【COVID-19に関する社会的スティグマの防止に向けて】

9月2日【総括要望書】

宮城は、いよいよ現場の声に応えてくれました。

軽症者、無症状者向け介護付き療養施設の設置とともに、家族が感染して濃厚接触者となる要介護者向けの整備も始めたようです。

まだ課題はあります。

自分の職場で応援職員を募るには、手を上げてくれる方々に対して、その感染リスクを少しでも低減する責任があります。

同時に、他法人からも手を上げていただけるであろう尊い志を持つ方々のことも考えないわけにはいきません。

①感染症専門医によるゾーニングのチェックが行われた施設への派遣であること

（少なくとも図面上で、発生前にチェックを済ませておくことが望ましいと思います）

②応援業務の内容が具体的に決められており、無理のないシフトが予め準備された施設への派遣であること

（県内で統一しておき、事前の研修として模擬訓練を行っておくことが望ましいと思います）

③応援先の施設の指揮系統に、派遣元の法人の感染対策担当者がアドバイザーとして関与することが予め認められていること

④保険、手当、宿泊場所、通勤手段などが、施設ごとに予め示されていること

すべての法人と危機感を共有しながら、派遣要請に応じてくれた方々の感染リスクを低減する仕組みの合意を目指さなくてはなりません。

これまでは（なんとか耳を傾けていただける）県と市に声を届けてきました。

これからは、（耳を傾けていただけないかもしれない）さまざまな考えの多くの法人に声を届けなければなりません。

それでも、現場から声を上げること。

その声が当然のこと（rights）なら、声の輪が広がり、声は届くということ。

今、コロナ禍のなかで、さまざまな職種の静かだった現場から声が上がり始めました。

withコロナは、その声に耳を傾け、対話する社会であって欲しいと思います。

＝＝Denmy-mlmgについて＝＝

■このメールは、「宮城の認知症をともに考える会」のイベントにご参加いただき、Denmyにご理解をいただいてメールアドレスを登録された方にお送りしています。

■DenmyはMiyagi People with Dementia Network（認知症当事者ネットワークみやぎ）の略称です。

■認知症当事者ネットワークみやぎは、認知症をはじめとする病気や障がいの当事者に対して、当事者が、その経験を活かしながら市民として社会に参画し、貢献することを応援する市民活動に関する事業を行い、当事者の尊厳と可能性が大切にされる「地域共生社会」の実現に寄与することを目的として活動しています。

■情報発信は、office@denmy.jp （事務局宛）にメールしてください。事務局よりメルマガに載せて配信いたします。なお、返信機能を使った場合は、不用意に全体に返信されないようにするため、事務局に配送する設定になっています。

■ML退会は、退会用URL：<http://denmy.jp/xmailinglist/mlmg/> からいつでも可能です。

■ML登録、メールアドレスの変更、一時休止は、下記事務局までメールでご連絡ください。

■認知症当事者ネットワークみやぎでは会員を募集しています。

・正会員（年会費1口個人3,600円、団体7,200円）

・賛助会員（年会費１口個人1,200円、団体3,600円）

お申し込みは、下記事務局までメールでご連絡ください。

一般社団法人　認知症当事者ネットワークみやぎ

代表　丹野智文

事務局　山崎・佐藤・小原

office@denmy.jp

TEL　022-771-1852／FAX　022-771-1853

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝